

刑事訴訟法I

Criminal Procedure I



ナンバリングコード	FHS-BCX2309		
開設年度	2024	開設部局	法文学部
学科・プログラム等	(法学コース)		
学期	後期	学年	2年 3年 4年
曜日	金	時限	1限
履修期		授業形態	講義
科目区分	選択	単位数	2単位
対面／遠隔	対面授業	授業回数	15回

■担当教員

中島宏

■共同担当教員

なし

■授業概要

この科目では、刑事訴訟法が規定する内容のうち、捜査手続きに関する部分を扱う。捜査機関が犯罪を発見し、証拠を収集するとともに、被疑者の身柄を保全するための手続きについて、その概要を理解したうえで、刑事訴訟法の捜査に関する規定の解釈論上の争点を、判例などを素材にして検討していく。

刑事訴訟は、犯罪に対して刑罰を科すための手続きである。具体的な事案について、捜査がなされ、被告人が起訴されて、公判において有罪が立証され、判決が言い渡されなければ、刑法の規定する内容も「絵に描いた餅」となってしまうだろう。その意味で、刑事訴訟法を学ぶことは、刑事法全体の中でも、刑法に匹敵する重要な意味をもつ。さらに裁判員制度の導入によって、犯罪捜査や刑事裁判の手続きに関する知識は、専門職に就く者だけでなく、すべての市民にとって必要なものとなっている。

なお、他の学期において別途に開講する「刑事訴訟法II」では、公訴・公判・証拠・裁判に関する部分(狭義の訴訟手続き)を扱っている。できるだけ両科目とも履修することが望ましい(順序は問わない)。

■学修目標

- (1)捜査・公訴の流れを正確に理解して説明できるようになる。
- (2)捜査・公訴の運用における実状を把握して説明できるようになる。
- (3)捜査・公訴をめぐる刑事訴訟法の解釈における重要論点について、判例・学説の正しい理解に基づき、具体例を用いながら説明できるようになる。
- (4)判例の分析を通じて、捜査・公訴に関わる具体的な事例に刑訴法の規定を解釈・適用して結論を示すことができるようになる。

■授業計画

本授業は、教室での授業(対面式)で行う。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第1回...捜査機関/捜査総説

第2回...捜査の端緒

第3回...任意捜査の限界

第4回...証拠の収集(1)ー令状による捜索・差押え・検証ー
第5回...証拠の収集(2)ー令状によらない捜索・差押え・検証ー
第6回...証拠の収集(3)ー体液の採取ー
第7回...証拠の収集(4)ー通信傍受ー
第8回...逮捕・勾留(1)
第9回...逮捕・勾留(2)
第10回...逮捕・勾留(3)
第11回...被疑者の取調べ(1)
第12回...被疑者の取調べ(2) / 協議・合意制度
第13回...被疑者の防御活動
第14回...検察官の事件処理
第15回...公訴提起の手続き

■授業方法

ディベート、学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等)

■準備学修に必要な学修時間の目安

本科目は、90時間の学修が必要な内容で構成されている。授業は60時間分(2h×30コマ)となるため、30時間分相当の事前・事後学修(課題等含む)が、授業の理解を深めるために必要となる。

■教科書

1)中島宏・笹倉香奈・宮木康博『刑事訴訟法』(日本評論社、2022年)
2)大澤裕ほか編『刑事訴訟法判例百選(第11版)』(有斐閣、2024年)。なお、すでに同書の第10版を所有している場合はそのまま利用してよい。
なお、法曹志望の学生は上記(1)に代えて、下記のいずれか1冊を使用すること。
酒巻匡『刑事訴訟法 第2版』(有斐閣、2020年)
宇藤崇・松田岳士・堀江慎司『刑事訴訟法』第2版(リーガルクエスト・シリーズ)(有斐閣、2018年)
吉開多一・緑大輔ほか『基本刑事訴訟法I(手続理解編)』『同II(論点理解編)』(日本評論社、2020年、2021年)

■参考書

※体系書

田宮裕『刑事訴訟法(新版)』(有斐閣、1996年)
宇藤崇・松田岳士・堀江慎司『刑事訴訟法』第2版(リーガルクエスト・シリーズ)(有斐閣、2018年)
酒巻匡『刑事訴訟法 第2版』(有斐閣、2020年)
白取祐司『刑事訴訟法(第10版)』(2021年、日本評論社)
上口裕『刑事訴訟法(第5版)』(2021年、成文堂)
辻本典央『刑事訴訟法(第2版)』(2024年、成文堂)
吉開多一・緑大輔ほか『基本刑事訴訟法I手続理解編』(日本評論社、2020年)
吉開多一・緑大輔ほか『基本刑事訴訟法II論点理解編』(日本評論社、2021年)
※注釈書
松尾浩也監修『条解刑事訴訟法[第5版]』(弘文堂、2020年)
河上和雄・中山善房ほか『大コンメンタル刑事訴訟法[第3版]』全11巻(青林書院、2021年～刊行中)
三井誠ほか『新基本法コンメンタル 刑事訴訟法[第2版追補版]』(日本評論社、2017年)
後藤昭ほか『新・コンメンタル刑事訴訟法(第3版)』(日本評論社、2018年)

■成績評価方法・評価基準

期末試験(70%)、中間レポート(20%)、ワークシートの提出(10%)

なお、復習課題の提出および授業への出席が全体の1/2に満たない場合は、期末試験の受験資格を認めないので注意すること。

法学コースの学生については、秀(90点以上)とする人数の上限を成績評価対象者(他コース・他学科に所属する学生を除く)の20%以内とする。

■オフィスアワー

追って指定する。その他の指定時間外でも質問等のための来訪を歓迎する。

■連絡先 (TEL)

099-285-7633

■連絡先 (MAIL)

h-nakaji@leh.kagoshima-u.ac.jp

■担当教員への連絡方法

電子メール、manabaの個別指導機能など。研究室の訪問も自由である。

■履修条件

自ら主体的に学び問う意欲のある者だけを「学生」と認める。

■実務経験のある教員による実践的授業

該当なし